

## 週日の説教

金 大烈 神父 2008年9月13日(土)

### 《よい木は、よい実を結びます》

今日の福音(ルカ 6:43-49)は、とても簡単明瞭な言葉です。そして、この言葉について「そうではありません」と言える人はいないと思います。『よい木にはよい実が結ばれ、悪い木には悪い実が結ばれる。』当然なことだと思います。今日は少し違う面を考えてみたいです。木の種類によって変わる実の話ではなく、同じ種類の木でも良い実もそうではない実も実ります。ですから、木の種類ではなく根という観点から考えてみたいです。木が旨く成長するためには何よりも根が大事です。結局、ポイントになるのは根の部分ではないかと思えます。見えるところには枝があり、葉も見えます。見えないところは根です。根が悪ければ木は枯れてしまいます。

朝鮮半島に初めてカトリック信仰が入って来たのは、およそ200年前です。その時、朝鮮(当時は南北に分断されていない一つの朝鮮という国でした)に宣教師が来て、福音を述べ伝えたわけではありません。遠くへ勉強に行った留学生の政治家が、初めて目にした素晴らしい学問としてキリスト教に接したのです。そして、その学問を朝鮮半島に運んで来たのです。ですから韓国の中に司祭という存在がほしかったのです。その望みはローマまで届いて、中国の司祭が派遣されます。そして西洋からも司祭が派遣されました。しかし、その時代は迫害の時代でしたから、公に「宣教師です」と言えばすぐに首が切られてしまいます。ですから、カトリック信者は迫害を避けて、山の奥に入り、陶器を焼きながら子ども達に信仰を伝え続けました。

その中で、殉教した金・アントニオという聖人がいます。その人が言った言葉はとても素晴らしい言葉として今まで伝えられています。日本も昔はカトリックと言わずに天主教といいましたね。金・アントニオは掴まれて背教を誘われた時、『私は天主教徒です。生きていても天主教徒で生き、死んでも天主教徒として死にます。私にとって、これは絶対に変わらないものです。』という告白をして、その何日か後に殉教しました。日本の殉教者もきっと同じ立場で同じ心だったのでしょ。

基礎がきちんとできている信者ならば何があっても、何の迷いがあっても乗り越えられます。正しく信仰は実を結びます。もし、何かよい誘いがあれば、そちらへ行ってしまう人は、根をきちんとおろしていない人です。時々、「私はいろいろなことに傷ついたので、創価学会に行ってみようと考えている。」というようなことを口にする信者がいます。信仰というものは趣味ではありません。また、そんなに簡単に移るものでもありません。もし私たちが洗礼を受ける準備の期間から、また洗礼を受けてから今日まで、きちんと信仰の道を歩んできたのなら、そういう迷いはありえないことです。イエス様は、今日の福音で『岩の上に建てられた家は、絶対何によっても揺り動かされない』とおっしゃっています。それは、私たちが基本的な面からよく見なければならぬことをおっしゃっているのだと思います。根をきちんとおろせば、よい実を結ぶのはあたりまえだと思います。

今日、福音の中に、このような表現がありました。『人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。』人間が口にすることは全て、中にあるいろいろな心の動きによって決まると思えます。心と違う話をするのは、本当に上手な人でなければできないことです。心にあるものが、出されるのです。ですから、自分は本当に信仰者としてふさわしい生き方をしているのかどうかを図るためには、つぶやく言葉、普通に話す言葉、感激したときに出される言葉、心の中の言葉について、確かめてみてください。口から出される言葉をよく考えてみると自分がどのような状態にいるかがすぐに分かります。つぶやくときもきれいに美しくつぶやく人もいます。しかし、口に出されるものは全て悪口、人を憎く言う言葉ばかりの人であれば、「主よ、主よ」と言ってもその人は本当の主に会ったことはないことを示していると思います。私たちから普通に言われる言葉が、誰かの助けになるのか、癒すことにな

るのか。また、いつも全てのことに文句や不満ばかり、裁こうとする言葉ばかりなのではないか。口に出してみると、自分の今の状態、未来の状態も図ることができるのではないのでしょうか。

よい根を持っているよい木はよい実を結びます。よい信仰を持っているよい人はよい実を結びます。そのよい木になるか、よい人になるかは、私たちが基礎的に持っているものが正しいかどうかによって変わるのではないかと思います。

その基礎的なものの中には、皆様が望んでいる内容も含まれています。何を望んでいるのか、何を希望しているのか、何の形の生き方をしたいのか。それによって私たちの人生は全然変わります。そういうことを意識しながらこのミサを捧げましょう。

ありがとうございました。